

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

巻頭言

「磐上建家」



宗教部長
佐々木 哲夫

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れてその倒れ方がひどかった。」イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

(マタイによる福音書 七章二四～二九節)

岩の上に家を建てた賢者と砂の上に建てた愚者が対比されています。建物の外観は同じですが、暴風雨の時に両者の違いがはつきりするということです。これは、「言葉を聞いて行う者」と「行わない者」を比喩的に対比させたイエス・キリストの教えですが、読者は、自分の人生において出合うさまざまな災厄に投影させつつ読むことでありましょう。ところで、聖書の群衆たちは、話の内容にはなく、権威ある者として教えたイエス・キリストに驚いています。イエス・キリストに、彼らの律法学者と違う雰囲気を感じたのです。

例えば、ここに先般ノーベル賞を受けた山中先生の講演原稿があるとします。その原稿を、i p s細胞に無関係な素人弁士が一字一句正確に読み上げたとします。他方、同じ原稿を山中先生自身が読み上げるとします。聴衆は、講演者が誰であるかを知っていますので、同じ原稿であっても、講演者の発する権威の違いを敏感に感じることでありましょう。それは、講演者と講演内容が重なり合うときに醸し出される雰囲気なかも知れません。

さて、群衆は、譬えを語ったイエス・キリストに権威を感じて驚きました。なぜなら、イエス・キリストが岩そのものであることを感じ取ったからです。換言するならば、イエス・キリストが、人生を建て上げる基盤そのものであることを感じ取ったのです。クリスマスは、磐上建家の権威を有する方の到来を祝う時でもあるのです。

イエスとヨハネの誕生



理事長
平河内 健治

クリスマスは主イエス・キリストのご降誕を祝う時です。

しかし、「ルカによる福音書」には、天使による神の子イエス誕生の予告やその母マリアの戸惑い、予定通りのイエスの誕生や周辺の様子だけでなく、不妊の女と言われた、マリアの親類エリザベートとその夫である老祭司ザカリアに子どもが誕生した物語も併行して記されています。私たちはこれをどのように受けとめたいのでしょうか。クリスマスは洗礼者ヨハネと呼ばれるようになる人物の誕生をも祝う時なのではないか。そこでは、キリスト降誕を祝うには無くてはならない心の準備をどのように求められているように思われ

ます。

ヨハネの父の祭司ザカリアは天使による息子の誕生の予告に反発したために口が利けなくなり、天使が言うには、「時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったから」でした。しかし、天使の

命令通り、生まれた子にヨハネという名前をつけたことにより、やつと口が利けるようになり、神の心から賛美します。信仰をもって「待つ」ことの大切さが示されています。

幼子は身も心も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に現われるまで荒野にいて、大人になってからイエスと出会います。ヨハネは天使がザカリアに約束した通りの生涯を送ることになります。天使の予告は次のようなものでした。「彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいたときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに帰らせる。彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい

人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」これはルカ第一章十五〜十七節に記されているものです。

ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行つて、罪の赦しを得させるために「悔い改めにふさわしい実をむすべ」と叫び、悔い改めの洗礼（バプテスマ）を宣べ伝えました。預言者イザヤの書に書いてある通りの行いでした。具体的には、群衆には財産の分かち合いを、徴税人には規定以上の取立てをしないように、兵士にはだれからも金をゆすったり、だまし取ったりしないように、自分の給料で満足するようにと指導します。領主へロデの悪事をも告発します。そのために牢に閉じ込められます。それでも、自分がその履物のひもを解く値打ちすらない、自分より優れた、メシアであるイエス・キリストの到来と出会いとを民衆とともに待ち望みます。遂には、イエスにもヨハネが水で洗礼（バプテスマ）を授けるといふ特別の出会いが生まれ、その時、「聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に」降り、

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という天の声が響いたと聖書は述べます。

クリスマスは幼子イエスの誕生を祝うだけでなく、イエス・キリストとの出会いを先取りして喜ぶ時でもあります。今過している待降節はその準備の期間です。私たちに新しい命が与えられ、新生や再生の体験ができるように切に祈る時であり、また、そのためには、ヨハネのように自分を律することが求められます。隣人との無償の分かち合いの愛の生活、我欲を捨てての社会生活、不正に汚されない職業上の勤めや学生らしい生活がその準備となります。

待降節にあつては、いつも歌人俵万智の一首の「誰を待つ何を吾は待つ（待つ）」という言葉すつくと自動詞になる」が思い出されます。

この世の所有物の獲得を待ち望むのではなく、それを捨てることによって、「待つ」という行為自体が天より降る恵みとなって「すつくと」自立できる新生と再生の歩みができよう祈りたいと思います。

大震災を経ても 創造主への感謝を



学院長・大学長
星宮 望

ことを中心として考えて見ましょう。大震災から「少し落ち着くと、私のところにテレビ、新聞、雑誌のインタビュアーが殺到しました。私が医者だからではなく、ケセン語訳聖書の著者だからです。彼らは皆、判で押ししたように、『東北の

人は非常に我慢強く、正直で善良である。こういう人たちがなぜ、このよ

クリスマスの季節がまいりました。クリスマスとは、われわれ人類の救い主としてのイエス・キリストの生誕をお祝いするものです。普段の生活をしている中では、特にその意味を考えないことが多いかもしれませんが、二〇二二年三月十一日の大震災を経験した後は、単純にクリスマスをお祝いできないと思った人も多いのではないのでしょうか？

キリスト教雑誌『信徒の友』二〇二一年十月号(三〇一―三三頁)に若手カトリック大船渡教会信徒で医師の山浦玄嗣氏の講演報告が掲載されており、ここで山浦氏が述べられた

うな目に遭わなくてはならないのか。神さまはなぜこのような酷い目に遭わせるのか。信仰者として今回の出来事をどう考えるか』という質問を投げかけてきました。私は髪の毛が逆立つくらい腹が立ちました。私はそんなことを一度も考えたことがありません。あの惨害の最中に何千人という気仙の人間を診ました。連れ合

いません」との記述があります。また、その後、「…人は皆死ぬようにできています。…人生は災害の連続です。…人が死ぬのは本当に悲しいです。そして、それとは別に災害が起こるのも当たり前のことです。この世界はそのようにできています。『なぜ』と問うこと自体意味がありません。」「生物はとても保守的にできていて、自分と同じような子孫を残すように遺伝子が働きます。ところが、ときどき出来損ないができます。これを突然変異といいます。環境の激変で親世代が死んでしまっても、新しい環境にはこのほうがかえって有利であることがあり、これが生き延びます。…そうやって災害のたびに生物は進化するのです。だから、人間はあらゆる生物の出来損ないの集大成とも言えるのです。このおかげで私たちは神さまを知るにいたったわけですよ」と続けておられます。

いような記述があります。一例をあげますと、旧約聖書の「ヨブ記」には、「ウツの地にヨブという名の人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた」というヨブが信じられないような艱難に遭遇し、すべての財産、親族を失うにもかかわらず、神さまへの信頼を失わなかった長大な物語です。

他方、自然科学分野では、DNA、免疫などの微細機構、あるいは、超高度電子デバイスにおける荷電粒子の振る舞いなどのミクロから、宇宙のマクロ現象まで、人知を超えた究極の自然の仕組みを知らなければ、ほど、全能の神の存在を心から受け入れるようになるといわれていますし、私もそのように思います。創造主のみ業に心からの感謝の念を表して、その神さまからの人類への究極のプレゼントである、「救い主キリスト」のご生誕を心から祝いたいと思います。

大変重要なお話だと思います。聖書には、いくつかのなかなか理解できな

あけぼのの光ひかり 高きより降りてくだ

大学宗教学主任 野村 信



汝、幼子よ、
お前はいと高き預言者と呼ばれ、
主に先立ち、
主の道を備え、
主の民の罪を贖う、救いの知らせを告げる。
我らの神の憐れみ深い慈愛により、
あけぼのの光、高きより我らに降りて、
暗闇と死の陰に住む者たちを照らし、
我らの歩みを平和の道に導く。
(ルカによる福音書第二章七六―七九節 私訳)

キリストが地上にお生まれになられる半年ほど早く、ヨハネは生まれました。父親のザ

カリアは、この幼子を見て、閉ざされていた口が、突然開いて、この讚美の歌を歌い始めました。

幼子ヨハネは将来、後から来る「主」のために準備をする人になる、と預言されています。人間の中でも最も光榮な役割を果たすのです。

一方、「主」なる方は、「罪を贖う救い」を実現すると言われます。なるほど、ヨハネよりも半年遅く生まれたナザレのイエスは、この後、十字架に掛かれて、世界の罪の贖いを実現されました(ヨハネによる福音書第二章九節)。

しかも、「贖(あがな)う」というこの恵みは、父なる神の「憐れみ深い慈愛による」と歌われています。ここで言われる「憐れみ」とは、元来「腸(はらわた)が痛む」という意味です。「神が痛む」ほど心を動かしてください。

その神の熱心は、「あけぼのの光」となって、私たちを照らしてください。

「あけぼのの光」とは、「昇る光」のことです。すなわち、日の出の、勢いのある、喜ばしい、すがすがしい朝の光の到来です。

ところが、驚くべきことは、「あけぼのの光」が、大地の端から上昇し始めるのではなく、「高いところから」私たちに訪れると歌われているのです。

ヨハネの父ザカリアは、自らの身に起こった不思議な出来事を通して啓示を受け、喜びと靈感に満たされて、未来を預言しました。それは、常軌を逸した表現で表されますが、この後、この歌のもつ意味の素晴らしさを世界の歴史が証言することになりました。

クリスマスの出来事は、私たちにすがすがしい「あけぼのの光」を投じてくれます。私たちは、この光に照らされて、すべてを新しく見て、すべてに感謝し、「新たな二歩を」踏み始めます。そこには、「まことの平和の道」があり、「命の道」(詩編第二六篇十一節)が広がっています。

各キャンパスのメッセージ

Tzumi

泉キャンパス

大学宗教主任

村上 みか



クリスマスおめでとございます。

今年も各キャンパスでクリスマス礼拝が行われ、皆さんとともにクリスマスを迎えられることを嬉しく思います。クリスマスはこの時期、学校の外でも友人や家族との楽しいひとときを計画されている方もおられるでしょう。その中で少しでも、なぜクリスマスを祝うのか、イエスの誕生の意味について思いを馳せてみてください。

イエスは、私たちが愛された存在であること、そしてそれを知って私たちがまた人を愛するようになるという、そのような愛のあり方を示しました。そしてこの愛に生きる生き方は、人間を悪から解放し、闇に光をもたらし、しぼんだ心に花を咲かせ、平和をもたらすものであることを、古の人々は知り、そのことを伝え続けたのです。その思いを伝える讃美歌「もろびとこぞりて」の歌詞を、今年は深く味わってみてください。

Taqajo

多賀城キャンパス

大学宗教主任

原田 浩司



年の瀬を迎えると、クリスマスのツリーやイルミネーションの点灯式が行われ、マーケットではクリスマス・シーズンのBGMがどこからともなく流れはじめられます。日本では世界に先駆けてこれらが行われますが、実はこれらは勇み足の「フライング」です。

キリスト教の暦ではクリスマス直前の日曜日をクリスマス礼拝として祝い、それまでの三週間は「待降節(アドヴェント)」と呼ばれます。二〇二二年は十二月二日(日)が待降節のはじまりでした。このようにクリスマスに備える特別な期間が設けられ、そしてこの期間に様々なデコレーションが飾られます。

多賀城キャンパスの礼拝堂では今年もクリスマス礼拝が祝われます。限られた四年間の学生時代に、工学部の学生の皆さんにもクリスマスの本当の意味と喜びを是非感じ取っていただきたいと思えます。礼拝堂の扉は皆さんのために開かれています。

Tsuchitoi

土樋キャンパス

大学宗教主任

出村 みや子



クリスマスの季節になると街頭にイルミネーションが点灯され、待降節の季節は何かを待つわくわくした気持ちにさせてくれます。

幼い頃に幼稚園や教会学校で降誕劇をした方もいらっしゃるでしょう。私は大学時代にキリスト教に出会って教会に通うようになりましたが、私が学生時代から使っている讃美歌はクリスマス讃美歌の部分だけ雪で濡れ、溶けたロウソクの跡が残っています。雪の降るクリスマス・イヴの夜に、教会学校の子どもたちと共に近所の家を回って讃美歌を歌うキャロリングに参加したのです。病気や加齢のために教会に来られなくなった信徒の方々が子供たちの讃美歌のプレゼントを大変喜んで下さった光景が、クリスマスの讃美歌を開くたびになつかしく思い出されるのです。学生の皆さんにも大学クリスマス礼拝を通して、忘れがたいクリスマスの思い出を作っていただきたいと思えます。

「クリスマス」の本当の意味は？

「クリスマス」は、「キリスト」と「ミサ」という言葉で成り立っています。すなわち、イエス・キリストの誕生を祝う「ミサ（礼拝）」のことです。どうして、イエス・キリストの誕生が特別に祝われるのでしょうか。

一つ目の理由は、神が人となられたという出来事だったからです。すなわち、私たちの見える被造世界に神が人間として誕生されたことを心より喜び、お祝いしたいからです。

もう一つは、イエスが誕生することによって、旧約聖書の預言者たちが長く待望していた救い主（メシア）が現れたからです。その救い主は、十字架の出来事によって人間の罪を贖うという救いを実現してくださいなのです。

ペトロは、そのことを「キリストは）十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった

傷によって、あなたがたはいやされました」（ペトロ二章二四節）と証言しています。

六世紀の修道僧ディオニシウス・エクシグウスは、聖書に記載されている年代とローマ皇帝の治世年数とを累積対照することによって、イエス・キリストの誕生の年数を割り出し、それを境に歴史を紀元前（BC: Before Christ）と 紀 元 後（A.D.: Anno Domini）に二分しました。それほど、イエス・キリストの誕生は画期的な出来事だったのです。

皆さんは、クリスマスをどのよう
に考えているでしょうか。プレゼン
トを交換する日とか、みんなで楽し
いパーティーを開く日とか、様々で
しょうが、ぜひ、東北学院大学の礼
拝堂で行われるクリスマス礼拝やキ
リスト教会で行われるクリスマス礼
拝に出席し、本当のクリスマスの意
味を体験してください。

* * *

なぜ十二月二五日なのか？

四世紀の話です。長く拒んでいたローマ帝国がいにキリスト教を許し、さらに国教としてキリスト教を受け入れました。その後ローマ帝国は東西に分れましたが、その結果、ローマを中心とする西方教会とコンスタンチノーブルを中心とする東方教会へ分岐しました。そしていつの間にか、クリスマスの祝い方が両者の間で異なるようになりました。

西方教会の伝統では、三世紀の末頃から十二月二五日をキリストの「降誕日（クリスマス）」として守るようになりましたが、東方教会では、四世紀頃から一月六日の「公現日」に「降誕」の祝いを行って来ました。そこで、両教会が歩み寄り、十二月二五日を「御降誕（クリスマス）」の日とし、一月六日の「公現日」には異邦人への救い主の到来の日として祝うようになりました。

なぜクリスマスが十二月二五日なのかについては、古代教会で考えられていた独特の歴史観にもとづく日

にちの算定があるようです。また、冬至に近いことから異教の「太陽の誕生祭」に対して「義の太陽（キリスト）」の出現を祝ったものであるとも言われます。

ひとつ確実なことは四世紀から五世紀にかけてキリストの本性に関する論争があり、キリスト養子論という異端説を退けるために、キリストは神の御子として確かに地上に誕生されたことが東西両教会で一致して強調されました。

つまり、クリスマスを十二月二五日に祝うということは、神の御子が人間として生まれ（受肉）、私たちの近くに來られたこと（インマヌエル）をしっかりと心に留めるためだということなのです。「インマヌエル」とは、マタイによる福音書第一章二三節にある、「神、我らと共にあり」の意味なのです。



クリスマス以外のお祝いは？

キリスト教のお祝いと言えば、クリスマスですが、他にも大切なお祝いが、教会の暦で定められています。

右のページに記したように、クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝う十二月二五から、東方の占星術者たちが訪れて幼子イエスを礼拝したことを記念する「公現日（顕現日）」まで続きますが、その四週間前から、「降節（アドヴェント）」という主の誕生を待つ期間が定められています。そして、教会暦では、この降節から一年を始めます。

さて続いて、春に主の復活を祝う「復活日（イースター）」が盛大に行われますが、その四〇日前の水曜日を「灰の水曜日」と呼び、この日から「受難節（レント）」が始まります。キリストの苦しみを覚えて、克己・節制する期間です。特に最後の週を「受難週（Passion Week）」と呼び、受難週の金曜日は、イエス・キリストが十字架につけられた「聖金曜日

（Good Friday）」、次の日曜日は「復活日（イースター）」を迎えて、はなやかな祝いを行います。

復活日から五〇日目の日曜日には、「使徒言行録」にあるように、人びとに聖霊が降り、教会が生まれたので、この日を記念して、「聖霊降臨日（ペンテコステ）」をお祝いします。

この後は、神が三位一体として顕現されたことを覚える期間が続きます。そして、再び冬が近付くころに降節がやってきます。

さて、教会暦と直接関係しない行事もあります。聖餐式、洗礼式、幼児祝福式、母の日、花の日、収穫感謝日、婚約式、結婚式、葬式、昇天者記念式などです。いずれの行事も大切にされています。

しかし、強いて言えば、クリスマスとイースターは最も楽しいお祝いであると言えます。特に、クリスマスは、私たちの大学でも学事暦に入れられて、大切に守られています。

* * *

大学のクリスマス礼拝とは？

十二月、冬休みが近付いてくるころ、大学クリスマス礼拝」が各キャンパスでおこなわれます。特別な礼拝として大切にされ、春と秋に行われる「特別伝道礼拝」のように、その日の礼拝時間を使い、さらに二校時の全部の時間を使ってクリスマス礼拝が行われます。

この日には、外部から特別に講師の先生をお招きして、クリスマスの説教をしていただき、またこのために編成された学生合唱団による「メサイア（ヘンデル作曲）が演奏されます。

この礼拝の中で「献金」をお捧げしますので、金額は自由ですが、心をこめてお献げしましょう。普段の大学礼拝では行っていないませんが、教会の礼拝では必ず献金が捧げられます。それは「礼拝」とは、そもそも「捧げる（サーヴィス）」という意味をもっているからです。

街角でも年末助け合いなど、この時期に寄付を募っているのを見かけます

が、私たちも、この礼拝で集めた献金を、援助を必要とするさまざまな福祉施設やNPO法人、個人に、その大切な働きの一助になることを願ってお贈りします。送金先及び送金額の詳細は、来年一月発行の「東北学院時報」に掲載し報告していきますので、それをご覧ください。

いままでは、クリスマスプレゼントといえば、サンタクロースが玄関先か枕元に届けてくれたり、あるいは両親からカラフルな包装紙にくるまれたプレゼントをもらった人も多いと思いますが、本当に必要な人々に「与える」ことが大切であることを学んでください。

なぜなら、イエス・キリストが地上に誕生されたクリスマスを祝うとは、私たち人類に、神が大切な「独り子」を賜って（プレゼントして）くださったことに感謝する時だからです（ヨハネ 三・十六）。それに応えて喜んで私たちも捧げたいものです。

（編集 野村）



2012年度 宗教部の活動

通年

大学礼拝

礼拝(朝) 土樋・泉・多賀城キャンパス

礼拝(夜) 土樋キャンパス 月～土曜日

寄宿舎礼拝 毎週水曜日

泉女子寄宿舎

泉寄宿舎・旭ヶ岡寄宿舎 毎週月曜日

聖書研究会 毎週火曜日

宗教部会 毎月

七月

キリスト者等推薦学生との懇談会 (二日)

第三十五回

青山学院大学合同チャプレン会議 (七月二十八日～二十九日)

第三十八回サマーカレッジ (六日～八日)

第五十七回教職員修養会 (二〇日～二二日)

説教者 ロバート・ウィットマー氏 (道北クリスチャンセンター館長)

社会福祉法人道北センター 福祉会理事長

二月

多賀城キャンパス(十四日) 説教者 磯貝 曉成氏 (キリスト教学校教育同盟 事務局主事)

礼拝オルガニスト懇談会(十八日) 礼拝司会者(牧師・宣教師)懇談会 (十八日)

第十七回キリスト者教員研修会 (十六日)

大学礼拝説教集第一七号発行

研修会・修養会発題報告集発行

十月

秋季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

・泉キャンパス (二日)

・土樋キャンパス「朝」(三日) 説教者 渡部 信氏

(日本聖書協会総主事) 多賀城キャンパス (三日)

・土樋キャンパス「夜」(三日) 説教者 島先 克臣氏

(日本聖書協会 翻訳部主事補) 『大学礼拝・チャペルニュース』(二二日)

(サマーカレッジ・秋季特別伝道礼拝特集号) 発行

第二十四回 泉キャンパスクリスマス(七日)

キリスト者等推薦学生との懇談会 (十日)

『大学礼拝・チャペルニュース』(二二日)

『クリスマス特集号』発行 大学クリスマス

・泉・土樋キャンパス(十三日)

四月

『大学礼拝・チャペルニュース』(二〇号(新入生歓迎号))発行 『二〇二一キリスト教活動のハンドブック』発行

第十七回スプリングカレッジ (十四日)

五月

春季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

・泉キャンパス (九日)

・土樋キャンパス「朝」(十日) 説教者 吉岡 康子氏

(青山女子短期大学 准教授) 多賀城キャンパス (十日)

説教者 焼山 満里子氏 (東京神学大学 准教授)

礼拝奉仕者懇談会

・土樋キャンパス (五月二日) 多賀城キャンパス(七月三日) 泉キャンパス (五月十六日)

編集後記

クリスマス特集号です。多くの大学一年生にとっては、今までにないクリスマススの体験であると思いますが、今年のクリスマスを通してキリストの誕生の尊さと不思議さ、そして喜びを少しでも実感して欲しいと思います。今回も多くの方々のご協力によって充実した紙面が完成したことを感謝します。

良いクリスマスシーズンと新年を迎え、来年さらに前進していきましょう。

(N)

二〇一二年十二月 東北学院大学宗教部 千九八〇一八五二一 仙台市青葉区土樋二丁目三番一号